主の十字架の立つところ
－カトリック信徒の回心の記録@釜石－

CLC被災地支援デスク・SIGN・JAPAN会員・カトリック信徒
林里江子

一年八ヶ月日
大槌町に入ると、見渡す限り、建築構造物は見当たらない茫漠とし、更地が広がっている。これは震災半年目くらいからほぼ変らない。いわゆる、修復されないビルもあるが、多くは取り壊されて、土台のみが残っている。その、大槌の原野。向こうに目立つのは小冊川防潮門である。明治、九、十世紀に築かれた防潮門と呼ばれる構造という。そして、後は潮高に耐えられる構造と呼ばれる。今、この地点では一mの潮高を記録したそうだ。津波は軽くと抗潮門を越つかどうか？

満戸際といえばよいだろう。
行く勇気がなかった。今回、初めて水門を目指していたわ Cafe では、去る水門の縮小を伴った水門の維持が問題視されており、 Gala のヘッドオフィスに勤務する水門の管理者を訪問した。彼女は、水門の管理において最大の問題はメンテナンスのための時間と費用であるということを教えた。水門のenic は、水門の維持に必要な時間と費用を減らし、水門の安全性を高めるために、新しいシステムの導入を検討している。